## （一）現在の酒蔵

| 市町村名 | 銘柄 | 酒造業者名 | 創業及び沿革・特記事項 | 杜氏 | その他の銘柄 |
|---|---|---|---|---|---|
| 福光 | 成政 | 成政酒造㈱<br>代表 山田和子 | 明治二七年から現地で操業していた湯浅権右衛門から、昭和六年に山田外三郎（襲名孝作）が譲り受けたもの。「成政トラスト吟醸の会」結成一〇周年を記念し、今年全国の酒蔵に呼びかけ「酒蔵サミット」を開催の予定。 | 能登 | 医王山・アローザ・純 |
| 砺波 | 立山 | 立山酒造㈱<br>代表 岡本巌 | 井波町新明屋仙助から、明治三年に中野村四右衛門が酒造株を譲り受けたのが始まり。日露戦争時「立山酒」として戦地でもてはやされ、明治三七年度の酒造人名簿（『富山県史史料編Ⅵ』）によると当時酒造石高が二〇〇〇石で格段の県下第一位であった。明治三九年株式会社となり、販売高が大きく伸び、今日の成長の基を築いた。 | 越後 | 銀嶺立山・連峰立山 |
| | 若鶴 | 若鶴酒造㈱<br>稲垣孝二 | 文久二年（一八六二）砺波郡三日市村（現福岡町）久次郎から、同郡三郎丸村市右衛門（桜井家）の弟勇三郎が酒造株を譲り受けたのが始まり。さらにこれを明治四三年、出町の稲垣小太郎（先々代）が譲り受けたもの。大正七年に株式会社となる。戦前から積極的に販路の開拓に努め、昭和三七年には北陸コカコーラボトリングを創設するなど、進取の気質に富んだ経営を行なっている。 | 越後・南部 | 三郎丸・玄・つる・素心・やわはだ |
| | 太刀山 | 吉江酒造㈱<br>吉江伊作 | 明治三〇年頃から狐島屋という屋号で酒の小売りを行なっていたが、昭和三年、先代吉江伊作が中野の藤井という造り酒屋を譲り受けて酒造を始める。昭和五〇年代後半まで、広島や越後の杜氏を雇っていたが、現在は息子美一氏が酒造りに取り組んでいる。 | 広島 | みちくさ・天武人 |
| 戸出 | 勝開 | 戸出酒造㈲<br>清都勇之 | 六十歩の清都理兵衛（「横綱」）の次男幸次郎が、明治二二年に現地へ分家したもの。明治三七年度二七年に譲り受けたもの。 | 越後 | 戸出の酔 |
| 井波 | 若駒 | 若駒酒造場<br>清都邦夫 | 六十歩の清都理兵衛（「横綱」）の次男幸次郎が、明治二二年に現地へ分家したもの。明治三七年度清酒醸造高は六〇〇石で、砺波地方では藤井四右衛門について第二位。 | 能登 | |
| 小矢部 | 北一 | 黒田酒造㈱<br>黒田登美 | 六十歩の清都理兵衛（「横綱」）の娘が、明治二〇年頃当家の次郎右衛門へ嫁いでから酒造業を始めたという。当時次郎右衛門は県会議員も務めた当地の有力な政治家。 | 越後 | 八乙女・合掌 |
| 五箇山 | 三笑楽 | 三笑楽酒造㈱<br>山崎政子 | 幕末頃から酒造りを始めたと伝える。砺波地方では最も標高の高い所にあり、厳寒期の気温はマイナス一〇度にまで下がることがある。また醸造には山間の豊富な湧き水を利用している。「三笑楽」とは、中国の「虎渓三笑」の故事により、酒は楽しく飲むものとの思いを込めた銘柄名。 | 南部 | |
| | | | | 能登 | 醇 |
| | | | | 能登 | こきりこ |



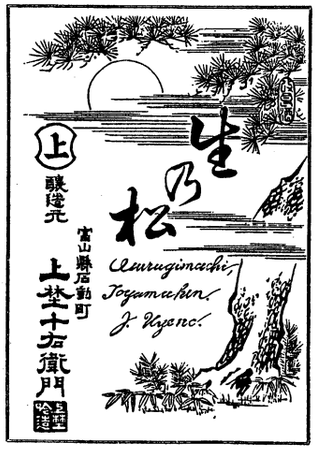
## （二）昭和三〇年代にあった酒蔵

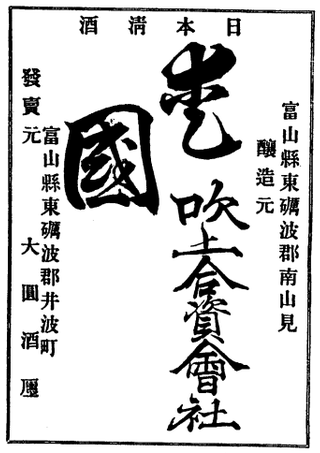
| 市町村名 | 銘柄 | 酒造業者名 | 現在 | 創業と沿革 | 杜氏 | その他の銘柄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 城端 | 勝いろ | 森井恵次 | | 弘化五年（一八四八）の文書に「院瀬見屋亥之助」とあるのが初見（『城端町史』）。明治三四年、森井醸造場となる（『富山県統計書』）。昭和四六年廃業。 | 能登 | |
| 福光 | 旭 | 福光酒造㈱<br>前田久太郎 | 前田酒店<br>前田 稔 | 文久三年（一八六三）の文書に「前田屋武右衛門」とあるのが初見（福光町立図書館蔵）。戦時中、統制により近在の八業者（城端森井・福光山田・前田、福野山田・砂土居、井波清都・春田、平 山崎）と合併し、当家で醸造を行なっていた。昭和四五年酒造中止。 | 広島<br>← | 一等・四君子・延年楽 |
| 福野 | 詩百篇 | 詩百篇酒造㈱<br>山田正年 | | 家譜によると、延享・寛延年代（一七四四～一七五一）の創業とある。明治二年から三年にかけて山田六右衛門は庄下組最後の十村を勤めた。山田正年は大正時代衆議院議員として活躍した政治家。山田秀徳は昭和二七年から二九年にかけて福野町長を務めた。昭和三八年廃業。 | 能登 | |
| | 梅鉢 | 砂土居酒造㈱<br>砂土居行雄 | 砂土居行雄 | 砂土居家の四代右門が、明治三年に創業。五代次郎平は県会議長や野尻村村長を務めた。大正年間に北陸で初めてビン詰を始めたという。昭和四三年廃業。 | 広島<br>← | 豊公・人気盛・大衆好 |
| 戸出 | 横綱 | 横綱酒造㈱<br>清都理兵 | リカーショップ・キヨト | 江戸時代から創業と伝える（『戸出町史』）。明治期の理兵衛は明治二〇から三〇年代にかけて、自分の二・三・四男をそれぞれ井波・戸出・高岡へ分家させて酒造業を行なわせている。また西中黒田家へ嫁がせた娘にも酒造りをさせている。 | 越後<br>← | |
| 中田 | 雄神 | 高桑酒造㈱<br>高桑正子 | | 昭和五五年酒造をやめ、現在は酒の小売りを行なっている。<br>文久年間創業という（『中田町史』）。創業当時は下代にいたが、明治三七年頃の庄川の洪水で下麻生へ転居。昭和五五年廃業。 | 能登 | |
| 石動 | 姫世界 | 石動酒造㈲<br>宮 新伍 | 宮酒店<br>宮 新隆 | 明治四〇年頃、縁続きであった上埜健吉から酒蔵・酒造株等を譲り受け小神から現地へ移り住んだ。昭和一八年統制で、近在の六業者と合同で「石動酒造」と称した。戦後それぞれが独立したあと、宮家がこの名を引き継いだ。昭和四五年酒造りをやめ、現在は小売り。 | 能登 | 明殿・弓清水・雄神川 |
| | 千登世 | 岡吉酒造㈱<br>岡本欣三 | 千登世酒販<br>岡本欣三 | 昭和一一年、現地で酒造を行なっていた可西次兵衛から譲り受けた。戦後、統制解除となり独立して千登世酒造となったが、昭和三〇年頃岡吉酒造と変え、のち再び千登世酒造とした。昭和四六年酒造りをやめ、現在は小売り。 | 能登 | あしつき正宗・豊百正宗 |

| 市町村名 | 銘柄 | 酒造業者名 | 現在 | 創業と沿革 | 杜氏 | その他の銘柄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 石動 | 千鳥菊 | 高田清太郎 | 高田清太郎 | 大正一三年に、先代高田清太郎が始めた。どこかの酒蔵を譲り受けたわけではなく、桶造りから始めたという。昭和一八年、統制で埴生の山本、石動の上埜十右衛門・宮・岡本、若林の黒田と合同して「石動酒造」と称して当家で醸造。戦後復活したが昭和四五年廃業。 | 能登 | 菊水冠 |
| 津沢 | 志ら菊 | ㈱津島酒店 | | 江戸時代は神嶋屋吉右衛門と称し、津沢町の肝煎。寛政八年（一七九六）、井波町三谷屋与六郎から酒株を譲り受け酒造を始めた（富山県立図書館蔵中島文庫）。昭和三六年、若鶴酒造に合併し、津島荻が取締役となる。 | | |
| 埴生 | 鳩清水 | 山本酒造（名）<br>山本良吉 | 山本酒店<br>山本良輔 | 屋号を山屋といい、元治二年（一八六五）の文書に「山屋長次郎」と見えるのが初出（富山大学蔵川合文書）。文久三年（一八六三）の酒造人（井波町肝煎文書）の中にはないのでこの間に酒株を取得したものと思われる。昭和四三年に酒造りをやめ、現在は小売り。 | ← | 菊酒 |
| 福岡 | 仁寿 | 福岡醸造㈱<br>酒井仁重郎 | 酒井宏 | 明治元年初代仁十郎が創業（当家資料）。戦時中の昭和一八年には、砺波醸造㈱と改め、さらに昭和二〇年福岡酒造㈱として登記。出町の吉江・津沢の津島・中田の高桑と合同し、当家で醸造していた。戦後統制が解除されて他家が独立し、福岡醸造と改める。昭和四五年から酒造りをやめる。 | 越後<br>← | |
| | | | | | 越前 | |

## （三）戦前あった酒蔵

| 市町村名 | 銘柄 | 酒造業者名 | 現在 | 創業と沿革 | その他の銘柄 |
|---|---|---|---|---|---|
| 井波 | 日の出正宗 | 春田嘉一郎 | 春田酒店 | 店舗・住宅は井波町にあったが、工場は連代寺の吹上鉱泉の横にあり「吹上合資会社」と称していた。そこの水が良質だったからだという。明治二九年春田嘉一郎が創業（富山県統計書）。嘉一郎は県会議員も務めた政治家。戦時中合併され、戦後は酒造は行なわずに小売りのみ。 | 一楽・愛国 |
| 石動 | 朝日生乃松 | 上埜十右衛門 | 上埜保博 | 江戸時代は油屋十右衛門という蔵宿で、家柄は古いが、いつ頃酒造を始めたかは不明。戦時中合併され、戦後は復活しなかった。現在は富山市在住。 | |
| | 若駒 | 上埜健吉 | | 上埜十右衛門の分家。江戸時代紅屋（明治新姓千葉東）の酒蔵を明治二～三〇年代に譲り受けたもの。明治三七年の醸造石高は四一六石余り。しかし四〇年頃には、蔵・株一切を宮へ譲っている。「若駒」は井波清都の「若駒」と無関係。 | |
| 福岡 | 千登世 | 可西次兵衛 | 可西昌世 | 創業年不明。本家と分家の二軒、あわせて三軒の可西で酒造を行なっていたという。昭和一一年同町の岡本欣三へ譲る。 | 勇花 |
| 出町 | 友白髪 | 中川喜知三 | | 明治三七年の醸造石数は二八八石余り。しかし、その後まもなく廃業している。 | |
| 若林 | 瀧乃生 | 高島孫八 | | 明治二〇年頃酒造量一〇〇〇石。しかし二代目孫八で破産。 | |
| 東般若 | 天狗酒 | 松浦重雄 | 松浦芳太郎 | 松浦将之がその弟重雄を名義人にして始めたもの。創廃業年は不明であるが、大正初年にはまだ大酒樽や土蔵が残っていたという。 | 天狗踊 |



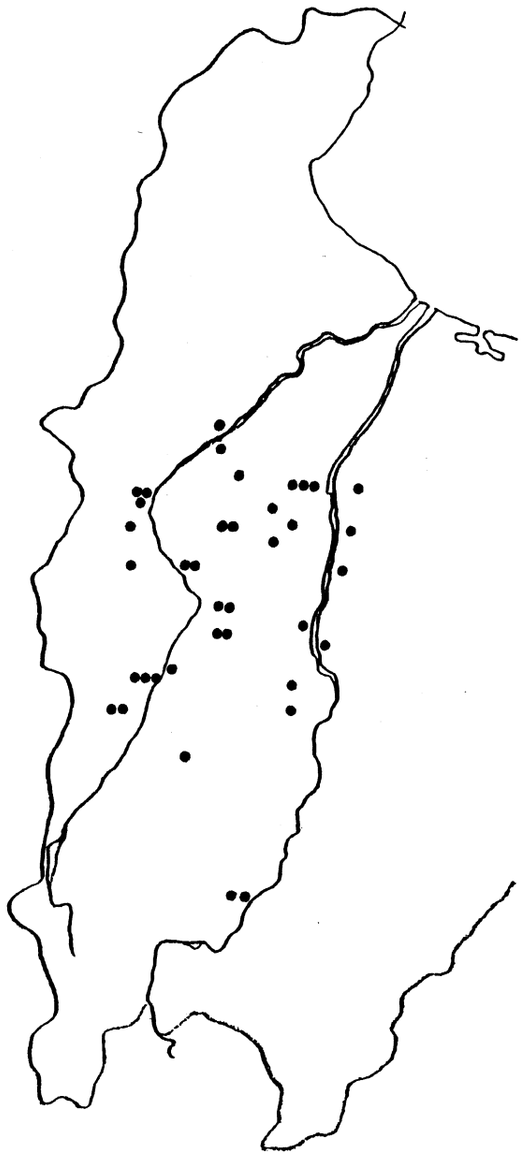



| 石数 | 製造場所在地 | 氏名 |
|---|---|---|
| 2，100石641 | 東砺波郡中野村 | 藤井四右衛門 |
| 596石395 | 東砺波郡井波町 | 清都幸次郎 |
| 586石312 | 同　南山見村 | 吹上合資会社 |
| 562石541 | 同　中田町 | 高桑良吉 |
| 537石154 | 西砺波郡福岡町 | 酒井仁十郎 |
| 508石967 | 同　広瀬舘村 | 高田幸三郎 |
| 486石470 | 同　石動町 | 上野十右衛門 |
| 486石059 | 同　若林村 | 黒田次郎右衛門 |
| 473石153 | 同　是戸村 | 清都初太郎 |
| 465石893 | 同　戸出町 | 清都兵次郎 |
| 416石641 | 同　石動町 | 上野健吉 |
| 381石009 | 同　戸出町 | 櫻井久五郎 |
| 360石064 | 東砺波郡福野町 | 福富芳松 |
| 349石907 | 西砺波郡福光町 | 前田四平 |
| 344石428 | 同　広瀬舘村 | 湯浅権右衛門 |
| 343石132 | 東砺波郡油田村 | 櫻井甚二 |
| 313石993 | 同　城端町 | 森井恵初郎 |
| (3カ) | | |
| 105石669 | 西砺波郡津沢町 | 津島吉六 |
| 294石973 | 東砺波郡福野町 | 山田正年 |
| 288石094 | 同　出町 | 中川喜知三 |
| 278石783 | 西砺波郡若林村 | 吉井外吉 |
| 271石618 | 同　福光町 | 高松文蔵 |
| 227石575 | 東砺波郡野尻村 | 福富潤之助 |
| 209石146 | 同　般若村 | 坂東久作 |
| 204石839 | 同　野尻村 | 砂土居次郎平 |
| 203石536 | 同　雄神村 | 小谷正吉 |
| 194石835 | 西砺波郡津沢町 | 中島七郎兵衛 |
| 170石292 | 同　石動町 | 可西次兵衛 |
| 161石164 | 同　北蟹谷村 | 高作久次 |
| 149石748 | 同　西五位村 | 寺島幸次郎 |
| 143石728 | 東砺波郡平村 | 水上繁 |
| 140石358 | 西砺波郡埴生村 | 山本良吉 |
| 138石869 | 同　吉江村 | 上坂久太郎 |
| 136石530 | 東砺波郡東般若村 | 松浦重雄 |
| 119石535 | 西砺波郡福光町 | 石崎文平 |
| 118石866 | 同　戸出町 | 大野彌三郎 |
| 115石874 | 同　山王村 | 佐伯雄三 |
| 112石273 | 東砺波郡平村 | 山崎宗繁 |
| 102石810 | 西砺波郡 | 堀助三衛門 |

（『富山県史史料編Ⅵ』「明治三十七年度富山県酒造者名簿」より砺波地方関係だけを抽出したもの）



図3　明治三七年度における砺波地方の酒造者の分布



1中野村　藤井四右衛門
2井波町　清都幸次郎
3南山見村　吹上合資会社
4中田町　高桑良吉
5福岡町　酒井仁十郎
6広瀬館村　高田幸三郎
7石動町　上野十右衛門
8若林村　黒田次郎右衛門
9是戸村　清都初太郎
10戸出町　清都兵次郎
11石動町　上野健吉
12戸出町　桜井久五郎
13福野町　福富芳松
14福光町　前田四平
15広瀬館村　湯浅権右衛門
16油田村　桜井甚二
17城端町　森井恵初郎
18津沢町　津島吉六
19福野町　山田正年
20出町　中川喜知三
21若林村　吉井外吉
22福光町　高松文蔵
23野尻村　福富潤之助
24般若村　坂東久作
25野尻村　砂土居次郎平
26雄神村　小谷正吉
27津沢町　中島七郎兵衛
28石動町　可西次兵衛
29北蟹谷村　高作久次
30西五位村　寺島幸次郎
31平村　水上　繁
32埴生村　山本良吉
33吉江村　上坂久太郎
34東般若村　松浦重雄
45福光町　石崎文平
36戸出町　大野弥三郎
37山王村　佐伯雄三
38平村　山崎宗繁
39(不明)　堀助三衛門

『富山県史史料編Ⅵ』「明治三十七年度富山県酒造者名簿」より砺波地方関係だけを抽出。酒造石数の多い順

| 町村名 | 元禄6（1693）年 | 文政13（1830）年 | 文久3（1863）年 | 明治4（1871）年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 城端町 | 近岡屋　甚左衛門<br>倉谷屋　久右衛門<br>森近屋　伊左衛門<br>板倉屋　次郎兵衛<br>松前屋与三右衛門<br>倉谷屋　市郎兵衛 | | | | |
| 福光村 | | 源兵衛<br>彦次郎 | 和泉屋　彦次郎<br>前田屋　武右衛門<br>室屋　善兵衛 | 和泉屋　彦次<br>前田屋　礼造<br>室屋　善蔵 | 前田酒店 |
| 福光新町 | | 与三郎<br>清左衛門 | 油屋　与三郎<br>和泉屋　清左衛門 | 油屋　与三郎<br>和泉屋　清吉<br>吉左衛門 | |
| 小坂村 | | | | | |
| 福野 | | 甚六<br>与太郎 | 上野屋　七之丞<br>上野屋　清六<br>二日町屋万右衛門<br>川崎屋　文蔵 | 上野屋　七彦<br>上野屋　清六<br>二日町屋　昆太郎<br>川崎屋　文蔵<br>川崎屋　守作 | 山田の分家<br>〃 |
| 杉木新 | | 甚兵衛 | 鷹栖屋　甚兵衛<br>不動島屋　清兵衛<br>勇三郎 | 鷹栖屋　甚吾<br>不動島屋　清平<br>丸屋　勇三郎<br>四右衛門 | 明治初年廃業<br>明治初年廃業<br>若鶴酒造<br>立山酒造 |
| 三郎丸村 | | | | | |
| 中野村 | | | | | |
| 戸出 | | 瀬兵衛<br>源七<br>長九郎<br>助左衛門 | 古武屋　源七<br>大木屋　助次郎 | 古武屋　源吾<br>大木屋　助次郎 | 戸出酒造 |
| 古戸出 | | 彦次郎 | | 大屋　彦次郎 | |
| 中田 | | 八郎右衛門<br>与三郎 | 太田屋　太八<br>六家屋　藤兵衛 | 太田屋　太八<br>六家屋　藤九郎<br>名畑屋　与三郎 | |
| 井波 | | 豊右衛門<br>与右衛門<br>平蔵<br>権四郎<br>仙助 | 高瀬屋　与右衛門<br>新明屋　仙助<br>大和屋　善右衛門<br>北村屋弥次右衛門<br>五ケ屋　三六<br>能美屋太郎左衛門 | | 明治3年、中野村四右衛門へ |
| 津沢 | | 吉右衛門 | 神島屋　吉右衛門 | 上島屋　吉平 | 津島酒店 |
| 埴生 | | 六郎兵衛 | | 山屋　長次郎 | 山本良吉 |
| 福町 | | 喜平次<br>宗兵衛<br>元右衛門 | 富山屋　元八<br>東屋　宇八郎<br>糠子島屋　源兵衛 | 富山屋　元八<br>東屋　卯八郎<br>糠子島屋　源兵衛<br>水落屋　雄左衛門 | |
| 三日市 | | 久次郎 | | | 文久2年、三郎丸村勇三郎へ |
| 立野 | | 孫右衛門<br>三右衛門 | | | |
| 合計 | | 27名 | 26名 | 27名 | |
| | 「組中人々手前品々覚帳」『城端町史』所収 | 「御用留帳」川合文書『砺波市史』第2巻所収 | 井波町肝煎文書<br>井波町立図書館蔵 | 「酒造人願書」菊池文書　富山大学蔵 | |